

夏の星座

Vol.3

夏の夜空に輝くたくさん星のあの一とつとつが何があったら楽しいなあ…。

そんな願いを叶えるため、夏の星座について、君津亀山青少年自然の家のスタッフさんに聞いてみました。流れ星に願いを込めたり、自分の星座を見つけたり…素敵な夜をお過ごしください。

【情報提供】千葉県立君津亀山青少年自然の家
君津市笹字片倉1661-1 TEL:0439-39-2628



これまでの星空ページはコチラ▶



前回(8/14号)の「さそり座」に引き続き、夏の代表的な星座「いて座」「こと座・わし座」「はくちょう座」のお話です。

「いて座」

さそり座の左に見える星座が「いて座」です。

白い光の帯となって流れる天の川が、ひときわ濃さをまし、光の大河となって南の地平に注ぐあたりに「いて座」があります。大きな弓に矢をかまえた、上半身は人間、下半身は馬のケイローンが、毒針を振りたてたさそりと銀河の両岸に向かい合う姿は、夏の風物詩として、見る人に興味を起こさせてくれます。この星座で特に目を引くのは6個の星が、小さなスプーンを伏せたような形に並んでいる部分です。この形を西洋では「ミルク・ディーパー、乳のさじ」と呼び、中国では北斗七星に対して「南斗六星」と呼ばれています。



「こと座・わし座」



いて座の左上の空にある星座が、七夕で有名な「こと座」と「わし座」です。

こと座の **ベガ(おりひめ星)** とわし座の **アルタイル(ひこ星)** の2つの一等星が天の川をはさんで輝きあう様子が、中国では、世界でもまれな七夕伝説となって生まれました。

ギリシャでも、この星座ついて、哀れにも美しい楽人オルフェウスの伝説が生まれました。

7月7日の七夕祭りの頃には、こと座のベガ(おりひめ星)もわし座のアルタイル(ひこ星)も、まだ東の空にあり、あまり見栄えがよくありません。旧暦の七夕に当たる8月の方が見ごろとなります。

「はくちょう座」



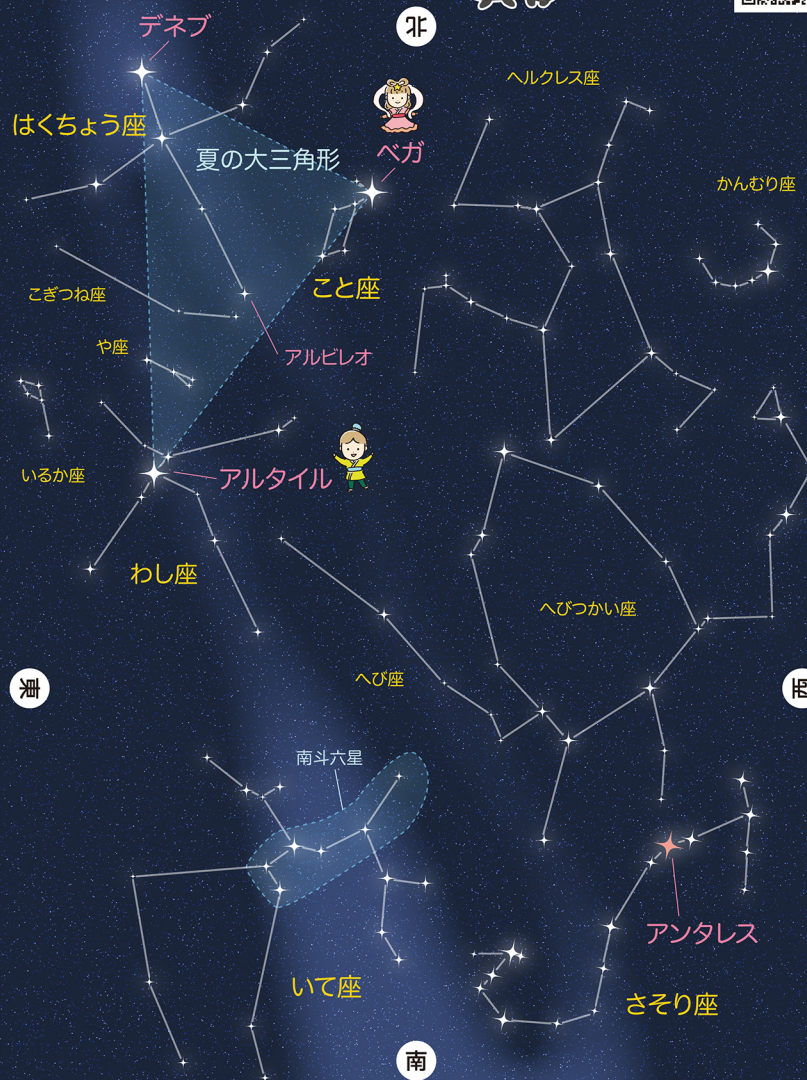
七夕のおりひめ星こと、こと座のベガとひこ星ことわし座のアルタイル。

この2つの間を流れる天の川の中を少し北に目を移すと、明るい5つの星が大きな十字架を作っているのが目にとまります。ここにあるのが「はくちょう座」です。

はくちょう座の中心部に十字になっている部分があります。この十字は南天にある南十字星に対して「北十字星」と呼ばれ、大きさは南十字の3倍以上もあります。

くばしに輝く **アルビレオ** は、金色の3等星と、エメラルド色の5等星が並ぶ美しい連星です。尾のところに輝く白色の一等星「**デネブ**」は「めんどりの尾」という意味で、文字通り白鳥の尾の所に位置し、こと座のベガ、わし座のアルタイルと結ぶと大きな三角形ができます。

この三角形を「夏の大三角」と呼びます。



※イラストと実際の空では見え方に違いがある場合があります。